

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

児童数	28
児童数	28

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.25	19.63	32.38	32.88	41.88	10.05	145.63	18.50	47.00
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	16.95	19.15	41.65	36.05	33.15	10.08	144.00	15.05	54.00
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

- 児童数が少なく一人一人の結果が平均値に大きく反映されているため、必ずしも実態に即した数値とはなっていないが、体力合計点は、男子が大阪市平均、全国平均を下回った。女子は大阪市平均、全国平均を上回った。
- 男子は上体起こし以外の種目で大阪市平均、全国平均を下回った。
- 女子は8種目中5種目で、大阪市平均、全国平均を上回った。
- 児童質問紙の「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、男子の100%、女子の71.4%が肯定的な回答だった。また、「1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子が0%、女子が9.5%だった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 「かけあし週間」や「なわとび週間」などの体育的行事を設定し、休み時間に自主的に運動に取り組めるようにしたことで、体力の向上が見られた。また、学年ごとの結果の発表や表彰を行い、児童の運動に対する意欲が高まった。
- 体力テストの前に、児童が自主的に各種目の練習ができる場の設定を行った。興味・関心のある児童が熱心に練習に取り組んでいた。
- 休み時間に積極的に外に出て運動する児童が増えてきた。運動場を遊ぶ場所ごと（ボール運動、一輪車、バトミントン、竹馬）に分け、安全に遊ぶことができるようとした。
- 児童の体力向上に向けて、体育の授業をさらに充実させる必要がある。特にICTを効果的に使った主体的、対話的な学びを進めなければならない。